

● 私はエスパ―田中。ちよつとかわった能
● 力を持つている。それは、私の知りたい
● 数が、相手の頭の上に見えるのだ。
● 例えば、あの人。今までにステーキを食
● べた数は・・・？と私が考えると・・・
● 「25」という数が頭の上に出た。
● ほう、25回も食べたのか。
● このように、私は知りたい数が見える。
● そんな私にある日、じけんがおきた。
● それは、私の家にお寺のおしよさんが
● おきようをとなえに来たときだった。
● おしよさんがおきようをとなえている
● 間、私はひまだった。
● だから、ついつい能力を使ってしまった、
● (あのおしよさん、今までにおなら、
● 何回したかな?)と考えてしまった。
● すると、頭の上に、39999回と出た
● 私はあまりの数の大きさに笑いそうにな
● ってしまった。しかし、それでは終わら
● なかった。おきようが終わり、チーンと
● 音が鳴ったしゆんかん、頭の上の数が、
● 40000回に変わったのだ。
● か・・・数がふえた・・・
● つまり、あのおしよさんは・・・
● 私は思わず笑い転げてしまった。

● 問い1 エスパ―田中のとくぎとは、自分の知り
たい（ ）が相手の頭の上に見える。

（ ） 問い2 エスパ―田中はどうして最後に笑い転
げてしまったのか。

（ ）